

令和6年11月定例記者会見

令和6年10月31日（木）午前11時00分～

<主な発表項目>

○新砺波市誕生20周年記念事業 オリジナルLINEスタンプ40種類を販売開始

新砺波市誕生20周年を記念して、多くの方に砺波市をPRするためのシティプロモーションとして、オリジナルLINEスタンプ40種類を作成し、11月1日から販売を開始する。

日常生活で使えるデザインや砺波市ならではのスタンプを揃えている。友人や知人など多くの方に広まり、利用者に親しみをもって日常会話を盛り上げて笑顔になってほしいと思う。

○新砺波市誕生20周年記念事業 となみっ子 すくすく夢パネル

新砺波市誕生20周年を記念して、10年後、20年後、100年後も砺波市がより良いまちであるために、また、みんながいいきと暮らすために、子どもたちの夢や希望、今後の砺波市への思いを書いてもらい、夢パネルを展示する。

これまでに、出町児童センター・庄川児童館・となみSDGsフェスと設置し、子どもたちの思いを書いてもらった。現在、砺波図書館にて展示中であり、期間中も思いを書いていただく。

12月には、市役所正面玄関ロビーにて展示を予定している。

○市内から発送される郵便物で市をPR

市公式プロモーション映像「ときめきが咲き誇るまち」を全国の多くの方に視聴してもらうため、プロモーション動画へつながるPRシールを作成した。

砺波市と包括連携協定を結んでいる市内郵便局（11局）にご協力をいただき、郵便物等を通じて受取人の方へ、砺波市の様々な魅力ある映像を届けたい。

○秋の剪定枝リサイクル大作戦

11月23日（土）、24日（日）の両日、秋の剪定枝リサイクル大作戦を実施する。剪定の適期でもある11月に屋敷林剪定枝を拠点で収集し、その処理費用を全額市が負担することで、屋敷林所有者の経済的負担を軽減し、野焼きによらない処理の普及と環境保全の効果を見込んでいる。市民の皆さんにもかなり定着してきており、運搬手段をもたない方や高齢者の運搬を手伝うなど、地域ぐるみの「共助」の取組も徐々に広がっている。

収集した剪定枝は、市がリサイクル処理施設に直接運搬し、全て堆肥等としてリサイクルしている。資源を地域で循環させる自然に優しい取り組みとなっている。

○臨海副都心チューリップフェスティバルでの剪定枝リサイクル堆肥の活用

「東京都立シンボルプロムナード公園」では、毎年砺波産チューリップを植栽し、「臨海副都心チューリップフェスティバル」を3月中旬から4月中旬にかけて開催されている。開催当初から砺波市のチューリップを無償提供し、プリンセスチューリップによる切り花配布などの協力をしており、年々人気が上昇しているスポットとなっている。

本市では、同公園の土壌改良に本市の剪定枝をリサイクルした堆肥を活用し、東京から地方の課題を支えるといった「日本横断型資源循環プロジェクト」を企画立案し、提案したところ東京都の承諾も得られ、プロジェクトが実現することになった。

2025年のフェスティバルに向けて、堆肥のすき込みを11月頃に行う予定としている。

○令和7年度砺波市当初予算編成

令和7年度予算においては、「第2次砺波市総合計画」に基づき、住みよさを更に拡充させ、より魅力的で活力ある安全で安心なまちづくりを展開する。

令和6年度当初予算は、この20年で最大の234億円余りであったが、令和7年度は、総合計画実施計画段階では237億円余りとなっている。一般財源ベースでは、167億円余りで、およそ2億円の増である。これは、人件費や物価高騰の影響で経常経費が増大しているため、やむを得ない面があるが、今後の予算編成のなかでスリム化に努める。